



2018. 2. 23

## 楽しかったよ！お店屋さんごっこ

2/6(火)外は雪が舞う寒い一日でしたが、幼稚園舎の2階は大変な賑わいでした。お店屋さんごっこがあったからです。

昨年末、私たち職員は「子どもたちがわくわくする幼稚園になろう」と話し合いました。今回は、子どもたちの夢や願いを叶えながら、楽しむことができるお店屋さんごっこになるといいなあと考えました。そのために、それぞれのクラスで作りに上げていく過程をずいぶんていねいに取り組みました。どんなお店屋さんにするのか？どんな品物を売るのか？他にもレジなど必要なものはないのか？そんなことを考えると、子どもたちがお店屋さんを経営するのもなかなか大変なんだということもわかりました。

みんなに来てほしいと思ったら、魅力的な商品が絶対必要になります。その点をよく考えたのでしょう。それぞれのお店で、ほしくなる商品がたくさん並びました。子どもたちがみんなで力を合わせて作ったことがわかりました。また、積極的なアピールも大切だと思ったのでしょう。「いらっしゃいませ〜」大きな声で懸命に呼び込みをしている子もいました。また、感心したのは、会計を済ませるレジの様子です。お店によってはレシートの作成、ポイントカードへの印、バーコード読み取り装置など、忠実に再現されてありました。実際の様子をよく観察しているんだと感心しました。



ゆり組でおいしそうにポテトを食べました。そんな気持ちにさせるお店屋さんのつくりでした。



きく組では、たくさんのお寿司を売っていました。一つ一つのお寿司がよくできていました。

子どもらしい発想が生かされ、それぞれ「なるほど」がたくさんあるお店屋さんになっていました。

ゆり組は、マクドナルドが再現されていました。よくできたポテトスティックやハンバーガーなど、それに座席も出来ていて食事が楽しめるようになっていました。お店の配置など、みんなでよく話し合ったことがわかりました。

きく組は、寿司屋さんでした。いろいろな寿司をお客さんの好みで選ぶことができます。たくさんのお寿司が出来ていて、みんなでがんばったことがよくわかりました。

ひまわり組は、日用品を売っていました。私は牛乳パックで作ったスリッパを購入させてもらいました。レジの対応もみんなで相談したのでしょうか。なかなか上手でした。

すみれ組は、「回転寿司屋」さんでした。皿が回転するのです。紐に皿をテープ止めし、紐を動かすと皿がついて動くしくみになっているのです。ただ、ときどき勢いよく回すと、皿から軍艦巻きやプリンが下へ飛び出していきました。でも、動きのある回転寿司は、強烈なインパクトがありました。お皿を回した皆さん、ご苦労様でした。



ひまわり組は、レジ係のみんなが頑張っていました。みんな手際がよかったので、感心しました。



すみれ組では、回転寿司屋さんで皿が動くのに驚きました。一定の速さで回すのが大変だったね。

さくら組は、楽器屋さんでした。1月中旬にパパ会の楽器つくりに触発されたお店でした。お父さんたちの努力が、ここに引き継がれているんだと思うとうれしくなりました。ギターやストロー笛、タンバリンも棚に飾ってありました。他にもギロや太鼓など、種類が多くなっていました。みんなでよく考えたことがわかりました。

うめ組は、食べ物屋さんでした。総合的な食べ物屋さんでたこ焼きやお弁当、それに新鮮な魚もありました。私はたこ焼きと鮮魚を買い求めました。おいしそうでした。

子どもたちは、今回のお店屋さんごっこで自分たちでやりたいことを実現することができたように思います。その楽しさが子どもたちに「もっと」を感じさせているのだと思います。お店屋さん熱は、しばらくは続いていく感じです。また、この様子を見に来た年少組の皆さんもお店屋さんの準備をしています。ほめたり、助言したりしながら、成長につながるように関心や興味に合わせた環境を整えたいと思っています。



さくら組では、楽器屋さんでした。面白い楽器がよく工夫してありました。



うめ組では、中央にレジが3台用意され、効率的に会計が行われていました。

# この声をきみに

昨年の9月から11月までNHKのドラマ10で「この声をきみに」という番組があった。私は、結構好きになってこれを見た。朗読サークルの人間模様を描いたもので、教師としての本能か、朗読の方法が気になったのも一因だ。主人公は竹野内豊さん。いつもはキリッとした彼だが、ちょっとさえない雰囲気もよく見ると魅力的だった。そして彼の朗読はなかなか聴かせてくれた。このドラマに取り上げられた物語や詩は、意外にも小学校の教科書に載っているものが幾つかあった。しかし、私が特に気に入ったのは、彼が別居している妻に送った詩集の本だった。これは教科書には載っていない。「今日」というタイトルだ。ここで、文章を紹介するが、かわいいイラストも描かれており、気になったらぜひ本を購入してほしい。私は2歳の子育てを頑張っている息子の嫁にプレゼントした。

## 今日

今日、わたしはお皿を洗わなかった ベットはぐちゃぐちゃ  
浸けといたおむつは だんだんくさくなってきた  
きのうこぼした食べかすが 床の上からわたしを見ている  
窓ガラスはよごれすぎてアートみたい  
雨が降るまでこのままだと思う  
人に見られたら なんていわれるか ひどいねえとか、  
だらしないとか  
今日一日、何をしていたの？とか

わたしは、この子が眠るまで、 おっぱいをやっていた  
わたしは、この子が泣きやむまで、 ずっとだっこしていた  
わたしは、この子とかくれんぼした  
わたしは、この子のためにおもちゃを鳴らした それはきゅうっと鳴った  
わたしは、ぶらんこをゆすり、歌をうたった  
わたしは、この子に、 していいことと わるいことを、教えた  
ほんとにいったい一日 何をしていたのかな  
たいしたことはしなかったね、 たぶん、それはほんと

でもこう考えれば、いいんじゃない？

今日一日、わたしは 澄んだ目をした、髪ふわふわな、  
この子のために すごく大切なことを していたんだって  
そしてもし、そっちのほうじゃなくなるとしたら、 わたしはちゃーんとやったわけだ

「今日」訳：伊藤比呂美／絵：下田昌克 福音館

※この詩を園だよりで紹介することは、福音館の代理店「こどものとも社」から承諾をいただいています。

この詩を声に出して読むとなぜか自然に涙が流れてくる。ニュージーランドに伝わる母親たちにエールを送る詩だ。これは小さな小さな本だ。子育てをしている皆さんを励ますいい詩だと思う。



もう少しおまけを話せば、この本の最後に、死んでしまった飼犬のことを書いた「虹の橋」という詩もある。あなたに死んでしまった飼犬がいて、もしその犬のことを忘れられないなら、この本を勧めたい。とっても幸せな気持ちになれるから。

## 2月「おおきなおみみで聞いてみよう」

2/7(水)の給食で「おおきなおみみで聞いてみよう」がありました。取り上げられた食材は大豆です。2月は節分もあり、そのときには大豆が大切な役目を果たしてくれました。大豆は日常の生活の中では、いろいろな加工食品にもなり「これもそうか」と驚くことがあります。

子どもたちが「おおきなおみみで聞いてみよう」の後、自分たちで大豆を煎り、すり鉢できな粉づくりに挑戦していました。でも、市販のきな粉にはほど遠い感じでした。私は自分でやってみることを大切にしたいと思っています。もちろん失敗もあるでしょうが「なんで失敗したんやろう？」と考えれば、それが貴重な体験になるはずです。私もインパクトのあるきな粉をいただくことができました。ありがとうね。

今では、大豆のたんぱく質が生活習慣病を改善する決め手になるということで、大変脚光を浴びているのも事実です。私は、朝食に大豆を欠かさず頂いています。最初に飲むものは、豆乳です。また、パンの上に納豆をのせていただきます。この二つは、毎日続けています。と言うのも、次第に血圧が高くなり気にしているのです。塩分を控えることが一番ですが、豆乳も効果があるということで飲んでいきます。また、納豆は自分の経験なんです。これをいただくとお通じがいいのです。大豆は、私にとってはとても大切な食材でもあるわけです。子どもたちにも、抵抗感なく食べてほしいなと思います。しかし、アレルギーになることもあるので、いろいろ加工されているだけに症状のある人は注意も必要だと思います。

職員室前の掲示スペースに、この大豆を取り扱ったクイズがありました。子どもたちは興味があるようでよくめくっていました。果たして、完全に答えを知っているかは疑問ですが、関心をもってくれていることが嬉しいです。「大豆からできるものはどれでしょう？」として“もやし”“びーなっつ”“しょうゆ”“なっとう”“ぎゅうにゅう”“だいこん”“みそ”“ばたー”“とうふ”

“とうにゅう”の10種類の食品が掲示してありました。その絵をめくると○×が書いてあるのです。子どもたちに関心を持たせる工夫がしてあるなと思いました。食育の担当の先生、有り難うございました。

